

常設展示室中世史料コーナーの解説パネルの改善について ～市民学芸員「展示替え検討会 解説パネル検討班」との協働～

木村 弘樹

はじめに

当館では、平成 26 年 3 月から館の活動に関わっている市民団体の方々と展示検討会を設置している。この検討会には、民俗分野の展示を検討する「三テーマ検討班」、現状からさらにわかりやすい案内解説を検討する「解説パネル検討班」、展示室において来館者がより展示に親しんでもらうためのクイズを設置する「クイズ検討班」がある。

今回は、その中で筆者が関わることとなった解説パネル検討班による中世史料コーナーの解説パネルの改善について紹介したい。

経過

常設展示の中世史料コーナーの旧状は、別添写真 1 のとおりである。概略を示すと A 部は常設の展示ケース内に収められた小田原北条氏関係の市域内への発給文書類、B 部は壁面を利用した展示古文書の書き下しパネルの掲示、C 部は展示ケース内に収められた室町期の『鎌倉大草紙』や北条早雲の制札などの展示であった。解説パネル検討班では現状の展示内容、各史料や解説パネル展示方法などの状況を確認し、次の問題点を見出した。

問題点

- (1) 全体的に文字が小さく、読みにくい。また、一部旧漢字等で表記されていて、わかりづらい。
- (2) 上記のため、B 部に A、C と同じ説明パネルをつけているが、展示史料との関係がわかりづらい。
- (3) さらに B 部は照明も当たっていないため、読みにくい。

これらの問題点について班内で検討を重ね、担当学芸員である筆者と相談のもと次のとおり改善案を作成した。また、合わせて一部のキャプションの文章の変更なども行った。

改善案

- (1) A 部、C 部の文字を大型化し、読みやすくする。
- (2) A 部、C 部の文字を大きくすることにより、B 部を廃

止する。

- (3) 説明パネルの文字サイズを大きくすることにより、パネルが大きくなるので、展示史料を上部に移動。
- (4) キャプションを必要に応じて斜めに取り付けるなど見やすさの改善を図る
- (5) 旧仮名、旧漢字の文章は極力現代表記に変え、文を読みやすくする。

その後、館内の調整や決裁処理を行った後、平成 28 年 1 月 28 日 (月) の休館日に解説パネル 6 枚の展示替え作業を実施した。

当日作業は、解説パネル検討班の進藤芳和さん、高橋彦雄さん、畠山義道さん、水田高之さんの 4 名と筆者の 5 人で行い、キャプションの製作、既存パネルの取り外し、新たな解説パネルの設置とそれに伴う展示物の微調整など約半日かけて終了した。その結果、別添写真 2 のとおり解説文が非常に見やすく改善された。なお、改善案 (3) の史料の上部移動はパネル調整の結果行わずに済んだ。

今後について

今回は中世史料コーナーの展示替えを行ったが、今後も引き続き解説パネル検討班にて検討を重ね、常設展示室内においてより見やすくわかりやすい解説パネルの展示替えを行っていただく予定である。特に、次年度は、近世コーナーの改善を予定しており、既に様々な改善に関する意見が出ているので期待しつつ、筆者としてもより良い展示に取り組みたい。

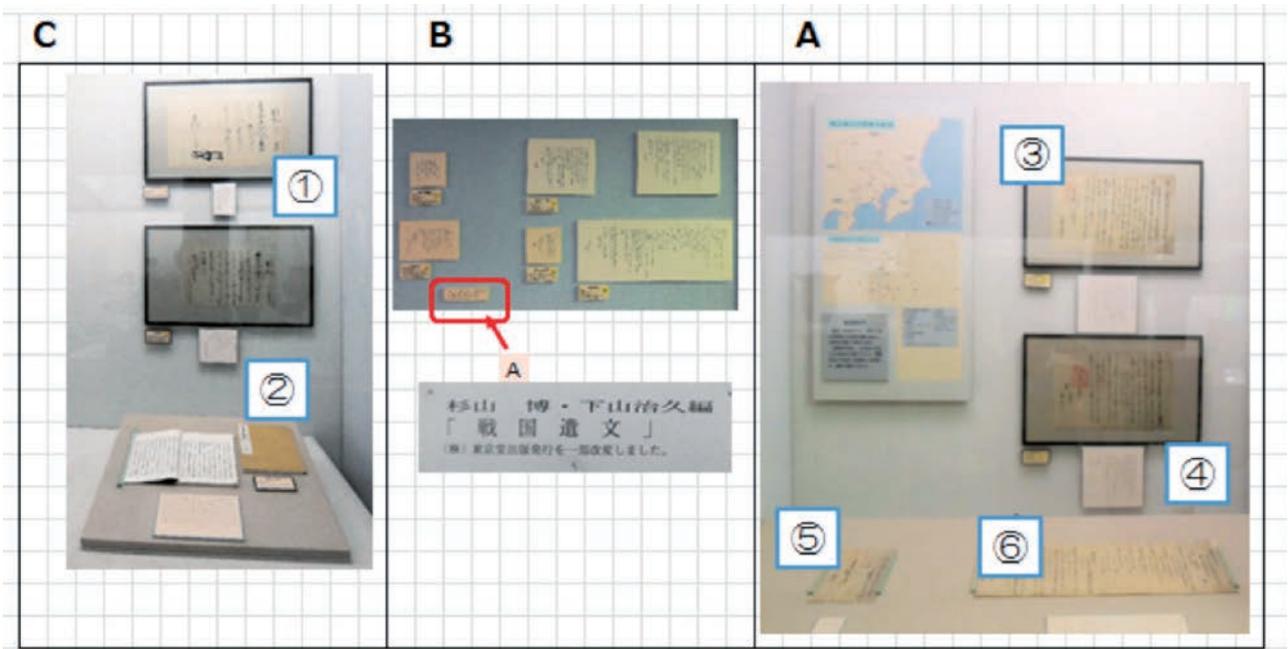


写真1 中世史料コーナーの展示替え前



写真2 展示替え後(B部は撤去)



C部

A部



写真3 展示替え風景 C部の新解説パネル設置



写真 展示替え風景 A部展示位置調整